

清心ならではの、
魅力あふれる教育コンテンツ

「もともと高校生が主体となっていたSSHの取り組みですが、研究のための環境をもっと存分に活用したいという思いもあり、探究活動の内容をさらに発展させて中学生にまでプログラムを広げていきました。自分で研究テーマを決めて本格的に取り組むのは高校2年生からになりますが、それまでに、フィールドワークや大学でのラボステイなど多種多様な研修を積み重ね、研究のイメージを作り上げていきます。」そう語るのは、同校の研究開発部長で探究学習「G+STREAM」を担当する田中福人先生。

取材の日、特に注目したのは午後から2時間連続の授業枠で行われる高校2年生の「SS課題研究」です。生徒たちは、個人あるいはグループで研究テーマを設定し、生物教室・化学教室・物理教室を活用して実験や観察を行います。



「理科の教師もすぐそばにいますが、生徒たちの求めに応じてアドバイスをを行うなど、あくまでサポーターです」と生物担当の黒田聖子先生（写真右）。実際に研究の様子を見ていると、

中には「小学生の時にセミの抜けがらを収集して調査をしていたので、中学でも継続したいと思いついた」という生徒も。ほかにも、「稲踏みの伝統が、収穫時の個体ごとのような影響を与えるのか。病気に対する耐性などについて効果があるのかを調べています」という生徒や、「私は野外で二ホンリスの生態調査を行っています。いま、長時間センサー付きのカメラで撮影した映像データを解析しているところですが、もしよろしければご覧になりますか」と、生徒が実際に動画を見せてくれました。

同校はSSHに指定された当初からアカハイモリの飼育と研究を行ってきたことで有名です。今回久しぶりに生物教室をのぞき、数多くの飼育ケースが変わらず並んでいるのを見て嬉しくなりました。オスとメスとでエサの好みに違いがあるのかなど、いまま研究は後輩たちに受け継がれています。こうした私学ならではの光景や、生徒たちの生き生きとした様子をぜひ知ってほしいと思います。



G-STREAM担当
田中福人先生

体育館で、ミュージカルの上演をめざしてダンスレッスンを行うのは、その名も高2「ハイスクールミュージカル」



外国人教師を中心とした、
ハイレベルな英語学習システム

「総合的な探究の時間」も活用して行われる「NELP」は、アメリカ、カナダ、フィリピン出身の4名の外国人教師によって行われる。右は、中学2・3年の異学年合同クラスで発展的な内容を教えるマーク先生。授業はもちろん英語のみで行われ、この日は英語表現の言い換えや対比について学ぶ。



写真左は「思いやりの心を持ち、他者に喜んでもらうことが何か」を考え、企画・実施していく高2の発展科目「隣人愛」。近隣の子ども園を訪問し、子どもたちとの関わりを通じて得た気づきを仲間と共有するのはカトリック校ならではの。下の写真は高2「SS課題研究」として、ミジンコの活動の様子を動画として記録し、生態調査を行う生徒たち



アストリッド先生の授業。テーマは「発明」、グループごとにユニークなアイデアを出していく



航海している船を立ち往生させる蜃気楼の現象「通称・海坊主（うみぼうず）」を、塩分濃度を変えた水で大型水槽の中で人工的に発生させ、様々な条件下で観察。実験結果による考察を動画にまとめる。我々取材スタッフへのプレゼンテーションも抜群の出来だった（写真下）



2006（平成18）年より文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール（以下「SSH」と表記）に指定されている岡山県倉敷市のノートルダム清心学園清心中・高。4期連続での指定は私立女子校としては唯一で、18年目を迎えるその取り組みは先進的で、より深みを増した充実したものとなっています。独自の探究活動「G+STREAM」は、「グローバル（世界的視野）」「サイエンス（科学）」「テクノロジー（技術）」「レリジョン（宗教）」「エンバイロメント（環境）」「アート（芸術）」「マスマティクス（数学）」という7つのカテゴリーを統合したもので、創立140年におよぶ同校の集大成とも言えるべき教育プログラムなのです。

私学の探究学習③

キラキラと輝く生徒たちの
知的好奇心と探究心！

清心

<https://www.nd-seishin.ac.jp/>

創立は1886（明治19）年。広島市のノートルダム清心中・高は姉妹校。

